

◆向井池東側エリアについて(境界柵について)

- 整備の方針
- ・柵の下部に、野生動物の潜り込み対策を行う。
- ・イノシシによる柵の飛び越えを防止するために、柵は高さ2mとする(農林水産省 野生鳥獣被害防止マニュアルより)。
- ・来園者が利用する園路の傍に設置するため、周囲の景観への調和に配慮する色とする。

	案1:メッシュ金網柵とコンクリートによる対策案	案2: 獣害対策用柵と柵下部のコンクリート埋設による対策案	備考
概要	<p>案1の概要図は、平面図、柵下部正面図、断面図A-A'、およびイメージ写真から構成されています。平面図では、鋼管支柱(50×30)が基礎ブロック(250×450)に固定され、メッシュ金網が支柱に巻き付けられています。断面図では、鋼管支柱が基礎ブロックに埋め込まれ、その周囲にコンクリート(φ100)が打設されています。イメージ写真では、緑色のメッシュ金網柵がコンクリートで埋められた基部を持つ様子が見えます。</p>	<p>案2の概要図は、平面図、柵下部正面図、断面図A-A'、およびイメージ写真から構成されています。平面図では、鋼管支柱(φ48.6)が基礎ブロック(250×450)に固定され、獣害対策用メッシュ金網が支柱に巻き付けられています。断面図では、鋼管支柱が基礎ブロックに埋め込まれ、その周囲にコンクリート(φ100)が打設されています。イメージ写真では、茶色の獣害対策用メッシュ金網柵がコンクリートで埋められた基部を持つ様子が見えます。</p>	<p>・案1の一般に公園等で使用される柵を獣害対策のために設置する例は、大阪府内で既に施工の実績がある。</p> <p>・案2は、滋賀県で柵下部の隙間を閉塞する類似事例がある(メーカーヒアリング)。</p>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に公園等で使用されている、メッシュ金網柵を標準的形態で設置し、柵の下部に土間コンクリートを打設することによって、野生動物が地面を掘り返し、道路側へ侵入することを防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・獣害対策用の柵を採用し、柵の下部に土間コンクリートを打設するとともに、金網部をGLより下げコンクリートに埋設することで、野生動物が地面を掘り返し、道路側へ侵入することを防止する。 	
景観面(景観への影響)	<ul style="list-style-type: none"> ・柵は景観に調和する色を選択可能。 <p style="text-align: center;">○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・柵は景観に調和する色を選択可能。 <p style="text-align: center;">○</p>	
獣害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・土間コンクリートによって、柵下部の掘り返しを防止している。 ・柵と地面は数cmの隙間ができるが、野生動物の侵入防止効果には影響がない。 <p style="text-align: center;">○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土間コンクリートで柵下部が固定されているため、野生動物の侵入を抑止する効果が高い。 <p style="text-align: center;">○</p>	
整備費	<ul style="list-style-type: none"> ・¥162,150(材料費・税別)/15m <p style="text-align: center;">△</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・¥109,500(材料費・税別)/15m <p style="text-align: center;">○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・柵の総延長15mで整備費を計上する。
維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・支柱、金網共にメッキ仕上げのため耐久性が高い。 <p style="text-align: center;">○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支柱、金網共に溶融亜鉛メッキ仕上げのため耐久性が高い。 <p style="text-align: center;">○</p>	
総合評価	△	○	